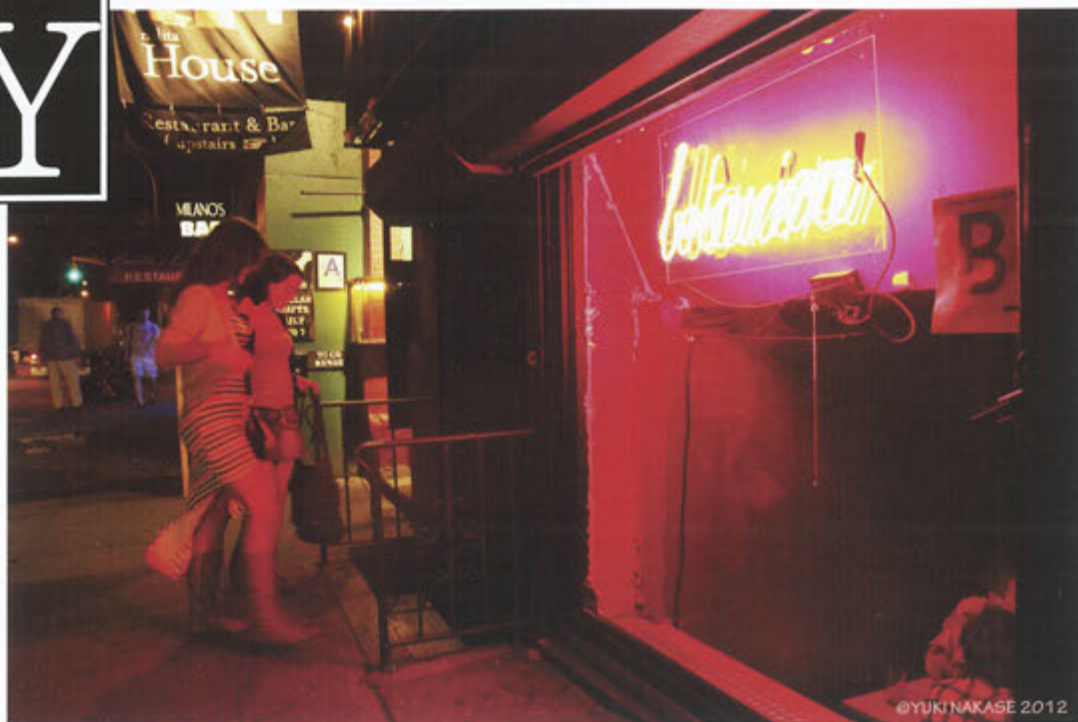


中瀬 有紀



NY Downtown Bars

アメリカの夏はフェスティバルの季節です。夏の間のみオープンする劇場や仮設劇場などを利用して、アメリカ国内あちこちで様々な演劇、ダンス、ミュージカル公演が開催されます。特にニューヨークセントラルパーク内の野外劇場The Delacorte Theatreにて、6月から8月にかけてほぼ毎晩開催されるパブリックシアター主催のShakespeare in the Parkは、ニューヨーク夏の風物詩の一つです。午後8時開演の公演を観るためには、午後に配布される整理券を取得する必要があります。そのためには当日夜明けと同時に劇場へ行き、券配布の列に並ぶ必要があります。

今年の夏は、私もニューヨーク市内の劇場で開催されるフェスティバルの照明デザインに携わっています。日本にいた頃思い描いていたアメリカの照明デザイン像とは、予算、時間、器材、人員が豊富で不自由なく発想を現実化できる夢のような世界でした。ところが当然のごとく、そんな甘い世界はごく一部の公演に限られ、先日私がデザインした公演は夢とは正反対の現実でした。

劇場はマンハッタン、ダウントウンに位置するCSV Flamboyant Theatreです。客席数74席、床面積約400平方メートルの

ダウントウンシアター

小さなブラックボックスシアターで、パフォーマー17人が劇場内を動き回り、イントレに登り、そして音楽によって場の雰囲気がコロコロ変わる実験的な不条理主義の芝居です。照明器材を吊ることが可能なパイプやそれに代わる金属製の“なにかしら”が、床から3.5メートルの高さに設置され、小屋器材は6"フレネル13台と、ETCソースフォー4台のみです。演出家の要望と芝居が要求する照明を設計するために一時は器材レンタルを考慮しましたが、小屋のディマー24チャンネルのうち12チャンネルが故障していて、使用可能と言われた12チャンネルも不安定、さらにディマーをレンタルする予算がないという、現実から追加器材を断念しました。結局、私は17台のライトと壊れかけの12チャンネルでなんとか50キューを成立させました。

壊れかけのディマーは最後まで私を悩ませましたが、17台という限られた台数のライトは不十分どころか、むしろ1台のライトから発する明かりの意味を深く感じる事ができました。意志を持った光が「不条理」を支えていたのです。たしかに照明デザインはろうそく1本から始めることができる芸術でした。